

令和7年度 学校図書館活用計画・評価シート

白地部分：計画策定時記入（年度当初）

水色部分：評価時記入（年度末）

足立区立東島根中学校 校長 大瀧 訓久

1 学校教育目標

人権尊重の精神を培い、基礎・基本を身に付け、思考力・判断力・表現力豊かで主体的に国際社会に貢献できる人間を育成するため、次の目標を設定する。

- ・思いやる
- ・自ら学ぶ
- ・やり通す

2 現状の学校図書館の課題

- ① 書架のひっ迫に対応し、書架・奥行調整材などの購入や配置の工夫、思い切った閉架書庫の利用時期となった。
- ② より授業活用されるために必要とされる資料（2・3・4・7類）の導入や整備。
- ③ 生徒の動線上にない施設立地なため、常に利用を呼び掛ける工夫が必要。

3 今年度の学校図書館の重点目標

- ① 学校図書館の「学習・情報センター」としての利活用を推進するため OPAC を活用する。
- ② 生徒の読書活動を支援し、様々な情報を効率的に駆使できるよう指導する。

4 今年度の重点的な取組

- ① 学校図書館で学習が円滑にできるよう、
- ② 読書時間を確保し、できるだけ図書館の本を読むよう様々なアプローチをする。
- ③ 生徒が行きやすい、居やすい場所となるよう、学校司書の対応時間も工夫する。

5 教科等における年間指導計画（対象学年は○数字で記載）

教科	内容（学校図書館の図書や資料を活用して取り組む単元等）
国語	①根拠を示して説明しよう、調べる学習コンクール ②メディアの特徴を生かして情報を集めよう、調べる学習コンクール ③情報を読み取って文章を書こう
社会	①身近な地域の調査 ②地域の在り方 ③私たちの課題
音楽	①日本の民謡 ②交響曲 ③ポピュラー音楽
理科	①生物の分類 ②天気とその変化 ③地球と宇宙
英語	①地球規模で考え、地域で実践しよう ②世界遺産 ③修学旅行
保健体育	・健康な生活と疾病の予防 ・心身の機能の発達と心の健康

実践の評価

国語科では、学校図書館を活用し授業を行うことができた。特に1学年では4月の図書館オリエンテーションを丁寧に行うことで、中学校における図書館利用について広く活用できることを学び、利用率も向上した。各教科においては、授業における題材調べから、スライド作り、発表までを学校図書館で行うことができた。各教科だけではなく、魚沼自然教室、校外学習、修学旅行などでも、学校図書館の資料を活用した。

6 図書館運営計画

(1) 日常的な取り組み

読書時間の確保（朝読書）①～③ OPAC を使用して学校の本を活用 ①～③
新聞の気になる記事のクリッピング③

(2) 主な行事等の取り組み

読書月間（ビブリオバトルや委員会の POP 作りなど本の話題があがるイベントを行う）11 月頃

(3) 図書委員会などの取り組み

① 学級文庫の選書・入れ替え ② 広報による PR ③ 書架整理（蔵書点検含）作業

(4) 環境整備の取り組み

① 館内のレイアウト、書架や奥行調整材を再考し使いやすさを向上。
② 電算化更新等に適切に対処できるようにする。

(5) 司書・外部との連携

① 学習で必要な本を迅速に取り寄せる。
② 特に授業への対応は円滑にできるよう、時間や資料の準備をより充実させる。

実践の評価

学校図書館の立地が教室棟から遠い条件を逆に活かし、OPAC や学年貸し出しなどでアウトリーチサービスを充実し、積極的に図書館を活用した学習環境を整え、展開した。また、図書館の書架計画の見直しを行ったことにより、より使いやすい図書館に整備できた。図書委員会の活動では、おすすめの図書を各学年に掲示するなどして、本を身近に感じられる取り組みを生徒主体で実施した。

7	学校図書館利活用に関する成果目標	達成基準	達成状況
①	探究的な学習を ICT と本、新聞など、複数の情報を活用して展開させる。	ICT と図書を併用した調べ学習を実施した回数：年 4 回	達成
②	読書タイムを確保し、生徒一人が年間 10 冊以上の本を読むようにさせる。	生徒の年間平均貸出冊数：15 冊	達成しなかった
③	年間の学習指導内容に合わせ、図書館を活用した学習を展開する。	授業で図書や資料を活用した教員の割合：50%	達成

8 学校図書館全体に関する自己評価

教員、学校司書、図書委員会などが連携しながらイベントの開催や POP・図書新聞の作成など図書館の環境整備に尽力することができている。また、国語科の授業や総合的な学習の時間で図書館の資料を活用した授業の展開を行うこともできている。課題としては、ICT と図書を併用した調べ学習の更なる推進と、教員の利用率の推進を図ることである。